

# 平成20年度事業報告書



学校法人鳥取環境大学

平成21年5月



# 設立趣意書

---

21世紀を目前に控えた今、国際化や高度情報化の急速な進展がもたらす社会・経済構造の変化が進む一方で、環境問題や資源エネルギー問題の顕在化など、わが国は大きな変動の時を迎えている。

今日の環境問題は、身近な生活環境から地球温暖化など地球規模の問題にまでわたり、その多くは都市生活型の公害や地球温暖化にみられるように、日常生活や事業活動に伴って生じた環境への負荷の増大に起因している。これらの環境問題の解決を目指すとともに、豊かな自然環境を将来の世代に継承していくためには、これまでの大量生産・消費、廃棄型の社会経済システムや生活様式を変革し、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会を構築しなければならない。

環境をめぐる諸問題は、従来の学問が対象とする領域を超える複合的な問題として現れており、人と社会と自然との関係を広い視野から多角的・総合的に理解し、環境と調和した新しい社会経済システムの構築に創造的に取り組む人材の育成が求められている。

鳥取県は、多様で美しい自然環境や優れた生活環境に恵まれている。本県は、環日本海諸国との環境問題に関する交流・協力を積極的に取り組むとともに、平成9年には環境基本条例を制定し、環境を保全し、より快適な環境を創造し、将来世代に引き継いでいくことを謳うなど、豊かな自然環境を保全するため県として積極的に取り組んでいる。

しかしながら、鳥取県が次代においても自然環境や優れた生活環境を保ち、豊かさと活力に溢れる県勢の持続的発展を期すためには、これらの施策のみならず、地域の問題から地球規模の環境問題の解決に創造的に取り組むことのできる資質を備えた専門人材の育成が必要である。

鳥取県と鳥取市は、これらの時代と地域の要請に応え、環境問題について人と社会と自然との共生の理念を基本に取り組み、解決できる人材の育成と創造的な学術研究を目指し、国内はもとより国際社会で活躍する人材を養成する大学の設立を志すものである。

本学は、高等教育機関充実への県民の期待を背景に、公的な支援による高い教育研究条件を備えるとともに、自主・自立体制を構築することにより、私学の柔軟性や即応性を活かした大学運営を図るため、鳥取県、鳥取市の連携によって新たな学校法人を設立する「公設民営方式」とすることとし、民間の協力を得ながら設立するものである。

(学校法人鳥取環境大学寄附行為認可申請書より)

# 基本理念

---

鳥取環境大学は、「人と社会と自然との共生」の実現に貢献する  
有為な人材の育成と創造的な学術研究を行うことを大学の基本理念とする。

## 目的

---

### 1. 教育

- ①教育を最重要課題として、自律的行動のできる健全な社会人を育てる。
- ②環境についての基礎基本とともに、各専門領域の知識や問題解決法などを身につけた人材を育成する。

### 2. 研究

- ①人と社会と自然との共生の実現のための研究に取り組む。
- ②各領域の専門性を活かしつつ、環境問題解決のために総合的に研究を推進する。

### 3. 大学の在り方

- ①グローバルな視点や意識をもちつつ、地域に根ざした問題に取り組み、また、大学の機能、知的資源を活用し地域に役立てる。
- ②すべてのステークホルダーを配慮しつつ、よりよい大学を目指し常に改善努力する。

# 沿革

---

## 開学前

---

- 1995年（平成 7年）** 鳥取商工会議所等から、「東部地区へ公立大学を設置」についての要望が鳥取県及び鳥取市へ提出される
- 1997年（平成 9年）** 鳥取県と鳥取市が、有識者からなる「大学設立準備委員会」を設立し公設民営方式による新大学の設置について検討を始める
- 1998年（平成10年）** 「新大学基本計画」を県議会、市議会が了承  
具体的な教育内容の検討と教員確保に着手
- 1999年（平成11年）** 文部省の許可を受けて、鳥取環境大学設立準備財団が設立される  
文部省へ学校法人鳥取環境大学寄附行為と大学設置の認可申請  
環境に配慮した様々な工夫を凝らしながら大学施設を建設工事
- 2000年（平成12年）** 文部省からの認可を受け、平成13年4月の開学が決定

## 開学後

---

- 2001年（平成13年）** 鳥取環境大学開学 [環境情報学部（環境政策学科・環境デザイン学科・情報システム学科）]
- 2005年（平成17年）** 大学院開設 [環境情報学研究科 環境情報学専攻（修士課程）（社会環境学領域・環境デザイン領域・情報システム領域）]
- 2009年（平成21年）** 環境マネジメント学科開設  
環境政策学科を環境政策経営学科、環境デザイン学科を建築・環境デザイン学科へ名称変更

## 平成20年度事業報告書（目次）

### 1. 事業の内容

---

(1) 平成20年度重点事業に係る事業報告	・・・・・・ p. 5
(2) 教育研究	・・・・・・ p. 10
(3) 学生生活	・・・・・・ p. 15
(4) 大学広報と入学試験	・・・・・・ p. 22
(5) 就職等進路支援	・・・・・・ p. 27
(6) 学外交流	・・・・・・ p. 35
(7) 環境関連活動	・・・・・・ p. 40
(8) 情報システム関連	・・・・・・ p. 43
(9) 新学科の設置準備	・・・・・・ p. 44
(10) 法人運営管理	・・・・・・ p. 45

### 2. 法人の概要

---

(1) 学校学部・学科等	・・・・・・ p. 47
(2) 入学定員、学生数の状況	・・・・・・ p. 47
(3) 教職員・役員の概要	・・・・・・ p. 47

### 3. 財務の概要

---

(1) 経年比較	・・・・・・ p. 48
----------	--------------

## 1 事業の内容

### (1) 平成20年度重点事業に係る事業報告

#### 1 学科改編に向けた諸準備

既存学科の3学科に加え、新たに環境マネジメント学科開設の届出を文部科学省に行い、受理された。併せて、環境政策学科を環境政策経営学科に、環境デザイン学科を建築・環境デザイン学科にそれぞれ名称変更する届出を行った。また、建築・環境デザイン学科においては、一級建築士試験受験資格認定課程の変更に対応した。

学科改編については、主として受験生に対して受験雑誌、Web、新聞広告等により広報した。特に新聞については、全国紙1紙に全面広告を掲載した。

また、研究所の設置に向けて、全学横断的な研究事業として「廃棄物系バイオマス（廃食用油）の利活用を核とした低炭素循環型社会の構築に関する研究」が平成20年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された。

#### 2 本学の在り方に関する改革検討委員会の設置等

県民・市民の視点で幅広い見地から本学の今後の在り方を検討するため、理事会の下に関係各分野の委員による「鳥取環境大学改革検討委員会」を設置し、学費水準、奨学金等学生支援制度、大学の魅力度向上のための施策、看護学科、設置形態など、本学運営に係る重要事項について意見を交換した。

開催日	協議事項
5/19	委員長の選出及び委員長職務代理者の指名 鳥取環境大学の現状について 授業料等の額について
6/24	学費について 平成21年度学生募集について 平成22年度以降の本学のあり方について
9/17	平成22年度以降の学生募集に向けた改善・改革について
12/18	鳥取環境大学の魅力度向上について 看護学科について

委員会での検討を受けて、環境活動や文化・スポーツ活動に優れた実績を有する者に対する奨学金の支給や、家賃助成、兄弟姉妹施設費免除などの学生支援策が、平成21年度から新たに導入されることとなった。

### 3 学生の確保

#### 【入試結果】

平成21年度入試の結果については、下表のとおりである。

区分	学科	募集 定員	志願者			合格者			入学者		
			本年度	前年度	比率	本年度	前年度	比率	本年度	前年度	比率
合計	環境政策経営	99	84	205	△12.2%	77	187	△11.2%	50	96	108.3%
	環境マネジメント	99	96			89			54		
	建築・環境デザイン	39	34	35	△2.9%	31	31	±0.0%	23	19	121.1%
	情報システム	39	45	58	△22.4%	35	39	△10.3%	25	26	△3.8%
	計	276	259	298	△13.1%	232	257	△9.7%	152	141	107.8%
編入学 (1・2期)	環境政策	2	3	2	150.0%	3	2	150.0%	2	2	±0.0%
	環境デザイン	2	2	0	—	2	0	—	2	0	—
	情報システム	2	2	1	200.0%	0	1	—	0	1	—
	計	6	7	3	△25.0%	5	3	166.6%	4	3	133.3%

\* 本年度志願者には社会人、留学生を含む。

志願者の減少傾向は止まっていないが、入学者数は開学以来初めて前年度を上回った。要因としては、AO入試及び推薦（指定校）入試という専願の志願者が前年度を若干上回ったこと及び合格者の入学手続率が高かったことが挙げられる。

学科改編による効果は、若干ではあるが入学者が増えていることから、あったものと思われる。

#### 【広報活動】

資料請求者などの接触者総数は対前年度比124%の4,990件と、また、接触者実数も対前年度比117.5%の3,939件と大幅に伸びたが、志願者増には結びつかなかった。効果的な時期・媒体の検討や、魅力的な内容に変更することにより、志願者増を目指す。

6/14、8/2～3、10/5に本学においてオープンキャンパスを実施した。4日間の来場者は613名で昨年より175名減少したが、受験対象者（高校生）が222名と昨年の216名に若干増加した。今後は、イベントの見直しや告知方法を改善して、参加者増を目指す。

また、昨年より250校以上多い県内外の延べ1,014校を訪問し、本学の説明と出願の依頼を行った。年度当初には学長が県内高校を訪問し、県内及び近県の高校には担当参与による訪問を重点的に行った。訪問時期の検討、訪問資料の改善、訪問先の検討・拡大を行い、更に効果的かつ精力的に高校訪問を実施する。

#### 4 教学の充実

##### 【FD（ファカルティ・ディベロップメント）研修の実施】

開催日	テーマ	講師
6/10	学生のメンタルヘルス	県精神保健センター 所長 原田豊氏
7/29	職場（教職員）のメンタルヘルス	幡病院 名誉院長 福間悦夫氏
11/18	「学生の基礎学力低下問題」 …現場が抱える課題とその対策	各学科教員
H21. 1/27	「学生担当として」 …現場が抱える課題とその対策	学務課職員

平成20年度は、年々多様化する学生への対応について、実際の現場で苦慮していることに焦点を当てて研修を行った。今後もFD活動を充実させ、各教員の教育研究活動を活性化する。

#### 5 学生支援の充実

##### 【授業料等減免】

今年度から授業料減免制度を拡充し、より手厚い支援を行った。

県内出身の学部生：世帯の総所得額が県立高校の授業料減免基準に準じた所得基準に達しない場合、年度ごとに、授業料等を半額免除

県外出身の学部生：学期ごとに各学年3～4名程度に対し、授業料等を半額免除

大学院生：学期ごとに3名程度に対し、授業料等を半額免除

鳥取県出身学部生 減免対象者数（年度ごとに授業料減免）

対象	免除金額/年	1年次	2年次	3年次	4年次	合計/人
環境政策学科	50万円	19	9	14	11	53
環境デザイン学科	65万円	4	6	3	5	18
情報システム学科	65万円	7	3	10	5	25
合計		30	18	27	21	96

県外出身学部生・大学院生 減免対象者数（半期ごとに授業料減免）

対象	免除金額/期	前期/人	後期/人	合計/人
大学院	25万円	3	5	8
環境政策学科	25万円	12	14	26
環境デザイン学科	32.5万円	2	3	5
情報システム学科	32.5万円	0	1	1
合計		17	23	40

## 【BDFスクールバス】

運行期間：H20. 4～H21. 2（土・日・祝日、長期休暇時は運休）

運行区間：本学～JR津ノ井駅～JR鳥取駅 往復

運行便数：1日6便

乗降者数（延べ人数）：22,063人

1日平均乗降者数：127人

1便平均乗降者数：21人

BDFスクールバスでの通学が浸透し、利用者の増が見込まれることから、平成21年度からは、朝、夕のみBDFバス2台体制とする。

## 【就職活動支援】

平成20年度学部卒業生の就職内定率は86.8%となり、前年より7ポイント以上低下し1期生以来維持してきた90%台を割り込む結果となった。

前年の早い時期から原油高騰の影響もあり厳しい環境を予想していたため、企業訪問の強化、未接触の学生に対する電話連絡の前倒し実施等対策を講じたが、成果には繋がらなかった。各企業開拓担当参与の開拓企業や、学内合同説明会参加企業等本学学生の採用に積極的な企業へ適切且つタイムリーに学生を誘導出来ていたか反省点が残る。

また、県内出身者が県内に就職する割合が40%を切る状況となった。従業員20名以上の県内企業約1,000社に求人票送付の依頼を出したが、実際に求人票が届いたのは30社程度に過ぎず、県内企業の厳しい状況を表している。昨年も少ない機会を生かすべく県内企業紹介ガイダンスを5月と7月に実施し、受験を促したがなかなか内定には結びつかない状況であった。

## 6 地域への貢献

### 【公開講座等の開催】

県東部、県西部で2シリーズ、計18回の講座を実施した。平成21年度においても、県東部、県西部での開催を継続し、固定層の満足と新規層の取り込みに務める。

また、公開講座以外にも、地域社会へ研究・教育の成果を還元するため、環境問題に関する講演会等を開催した。アンケート等の結果によっても、これらのイベントに対する満足度は高く、地域貢献という本学の使命の1つを果たしていると考えられる。また、学生がこうしたイベントに参加することで、学生に対する教育効果も期待できる。今後も引き続き、地域イベントの開催及び参画を行う。

## 7 環境への配慮

### 【ISO14001】

平成21年1月に外部審査機関による更新審査を受け、合格した。更新審査では9点の改善点が指摘されたところであり、今後、指摘された9点の改善に取り組み、本学EMSの向上・改善に努める。

## 【 TEAS審査業務 】

I種審査 1件

II種審査 15件 (内高等学校14校、体育施設1施設)

(学生副審査員の活動数13)

主に高等学校を対象として、TEAS審査を行った。高等学校の審査では、本学の学生が副審査員を務め、本学学生への教育と共に、高等学校へのPRにもなった。平成21年度はさらなる審査員の質の向上に務めると共に、新規件数の確保に努める

## 8 経営基盤の強化

### 【 経営の効率化 】

3学科から4学科への改組に合わせて学科毎の教員数を設けるとともに、事務職員の退職に伴う欠員補充については、新規採用は最小限として、派遣職員や嘱託職員を充てることとした。

平成20年度決算では、減価償却費を除いたキャッシュフローベースで約1億円の赤字が生じたところであり、経営改善に向けて戦略的支出構造への転換を進める必要がある。

### 【 資金運用 】

「資産運用規程」及び「資産運用に関する基本方針」に基づき、資産運用委員会の意見を聞きながら本学が保有する金融資産の効率的な運用に努めた。

平成20年度運用資産

(単位：百万円)

区分	運用額	運用方法
保有1年以内の短期資産	400	普通預金、定期預金
保有1年～5年の中期資産	1,060	国債、地方債、企業債、外債
保有5年以上の長期資産	2,800	国債、地方債、企業債、外債、投資信託
計	4,260	

受取利息配当金収入の推移

(単位：千円)

平成18年度	平成19年度	平成20年度
12,529	51,457	77,963

運用収入の増加は、平成19年度中途から中長期保有資金の3割を上限として行っている外貨建て債券及び外債型投資信託による運用の影響が大きいが、金融危機の影響により豪ドル建て債券200万AUドルが繰り上げ償還となったことから、債券購入時と償還時の為替差損が66,780千円発生した。この200万AUドルについては、引き続きAUドルで保有し、国内債券よりも高利回りのAUドル債券やMMFで運用する。

## (2) 教育研究

### ア 学部卒業生

環境情報学部	人 数
環 境 政 策 学 科	1 4 9名
環境デザイン学科	4 4名
情報システム学科	3 6名
合 計	2 2 9名

### イ 環境政策学科

社会科学と自然科学、二つの視点から総合的に環境政策や社会システムの立案ができる人材を育成

#### ( 学科の特徴 )

- ・ 法学や経済学、経営学といった社会科学的アプローチを重視する。
- ・ 環境問題の発生基盤となる社会の構造や企業の役割を理解することに努める。
- ・ 環境問題が発生するメカニズムを自然科学的見地からも考察する。
- ・ 行政や企業などのフィールドで、総合的な視点から環境保全対策を立案することのできる能力を備えた人材を育てることを目指す。
- ・ 学生が夢中になり、楽しく学べる学科づくりを目指す。

### ウ 環境デザイン学科

家具から建築、街並み、都市計画まで、環境と調和するデザインを創造することのできる人材を育成

#### ( 学科の特徴 )

- ・ 環境に優しい生活の在り方を総合的に探求する。
- ・ 環境デザインの演習・講義・実験を通じて「安全・健康・快適で耐久性のある美しい生活空間」を実現するためのデザインと技術を学ぶ。
- ・ 地球の環境について視野を拡げ、自然と人間の未来を豊かな目で見つめ、将来の生活環境に貢献できる人材を育成する。

## エ 情報システム学科

理工系と人文社会系の知識をバランス良く有し、循環型の社会経済システムやライフスタイルのための高度な情報システムを構築することができる人材、及び、急速に進展するコンピュータ技術に対応できる素養を持ち、コンピュータシステムを、それが利用される環境で最適に運用するための思考法と方法論を持った人材を育成

### ( 学科の特徴 )

- ・ 教育中心・重視の大学として、学生に高い付加価値をつけて送り出すことを第一の役割とする。  
ただし、手取り足取り教えるのではなく、学生に「各人が自らを育てる責任」があることを伝え、自ら学ぶ力とそのため基礎的知識、習慣、スキルを身につけてもらう。
- ・ 豊かな人間性と感受性を持って、人生をいきいきと生きる人物に育つよう、全人的教育を行う。  
(健全な社会人、国際的に活躍できる人材を育成するには、単に知育だけでなく、全人的教育が求められる。)
- ・ 情報システムの世界は技術の進展も早く、また、関連領域も広いので、自分で学ぶことと併せて、多くの他分野の専門家とも協力して仕事ができることが大事であり、コミュニケーション能力を重視する。

## オ 人間形成教育センター

幅広い教養教育・基礎教育である「人間形成科目」を開講して、専門教育への橋渡しを行う。

### （ 人間形成科目とは ）

世界で通用するコミュニケーション能力を効果的に身につける「外国語科目」、コンピュータの基礎から応用までを体系的に学ぶ「情報処理科目」、豊かな人間性を育むために幅広く学問の基礎を学ぶ「総合教育科目」、これら三つの科目群で構成され、知識の習得に留まることなく、多角的な視野を育てる。

### （ 特色ある外国語教育 ）

- ・ 実践的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする「インテンシブ・イングリッシュ（1～8）」を開講。

### （ 主な特徴 ）

- ・ 1年次には全学科必修、1回90分・週3回の集中プログラム
- ・ 文法・語彙・リーディング、作文・発表、理論的思考と議論の3領域について基礎的項目を修得
- ・ 講義は原則として英語で行われ、リスニングの技能は全てのコースで養成される
- ・ 海外英語実習  
本学が交流協定を締結している、ユニテック工科大学（ニュージーランド）での海外英語実習は、開学以来毎年度実施してきたが、平成20年度については、参加希望者が最低催行人数に至らず、中止した。
- ・ 英語以外の外国語科目は、中国語・韓国語の2言語に関する授業科目を開講した。

## カ プロジェクト研究 ＊3学科共通

社会人となってから役立つ実践的なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、企画・実行力を養うことを目的とする「プロジェクト研究（1～7）」を開講した。

### （ 主な特徴 ）

- ・ 1年次と2年次前期（プロジェクト研究1～3）には、学科の枠を超えた学生5～6名でチームを編成して、環境問題や企業・地域社会が抱える問題等を題材としてグループ研究を行う中で、情報収集・調査分析方法、討論の仕方、レポートのまとめ方、プレゼンテーション技法等、大学での勉学に必要な基本的姿勢・スキルを身につけ、2年次後期から4年次（同4～7）には学科別にチームを構成し、それまで培ってきた知識・経験を活かして、専門的かつ実践的な研究活動を行う。

## キ 大学院修了生

環境情報学研究科	人数
社会環境学領域	2名
環境デザイン領域	4名
情報システム領域	6名
合計	12名

\* 大学院第2期修了生

### ( 環境情報学研究科の特徴 )

- ・ 1専攻「環境情報学専攻」3領域「社会環境学領域」「環境デザイン領域」「情報システム領域」で構成し、各分野の先端的な学術研究を推進し、「環境学」の高度な専門性と幅広い視野・見識を持つ人材を育成する。

## ク 研究計画

- ・ 学内研究費による研究  
専任教員による個人研究費による個人又は共同研究を実施。
- ・ 学外研究費による研究

### [ 受託研究(6件、5,082千円) ]

タイトル	企業名等	金額(千円)
セラミック浴面放電を利用した燃焼の促進	(有) S&A 技研	500
宇宙機搭載の小型軽量なマルチパラメータ降雨レーダの研究	(財) 日本宇宙フォーラム	880
熱帯降雨観測衛星 (TRMM) 降雨レーダ (PR) 標準アルゴリズムシステムの高度化についての検討	(独) 宇宙航空研究開発機構	1,598
県産木製ベンチ・デザイン試作委託業務	鳥取県農林水産部森林保全課	202
勝福寺本堂の耐震性能調査および耐震改修法の検討	宗教法人勝福寺	1,102
平成20年度森林生態系における炭素収支モニタリング	(独) 国立環境研究所	800

### [ 共同研究(2件、6,653千円) ]

タイトル	企業名等	金額(千円)
木造住宅用免震支持具の開発*	家の修繕・ねっとわーく(有)	0
人体内通信を利用した自動健康コンサルティングシステムの開発	(株) eBase Solutions Laboratory	6,653

\* 平成19年度から継続。平成20年度受入額0円。

[ 公募採択型研究（3件、1,080千円）：金額は確定分のみ ]

タイトル	企業名等	金額（千円）
定年帰郷願望への対応策研究	鳥取県平成20年度とっとり「知の財産」活動推進事業	999
廃食油回収用ユビキタスネットの研究開発	中国総合通信局 平成20年度戦略的情報通信研究開発推進制度 (SCOPE) 地域 ICT 振興型研究開発	81
廃棄物系バイオマス（廃食用油）の利活用を核とした低炭素循環型社会の構築に関する研究	平成20年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	17,633 (補助金額 9,145)

[ 鳥取県環境学術研究費補助金（13テーマ採択、補助金額17,242千円） ]

[ 科学研究費補助金（研究代表者6件、研究分担者6件、補助総額15,258千円（内訳：直接経費 11,991千円、間接経費 3,267千円）） ]

ケ 研究者及び研究成果の公開

大学シーズ(研究者情報)等の PR を行い、産学官連携の推進を図る。

- ・ 『研究者一覧・研究テーマ集2008』の発行・・・1,800部
- ・ 本学教員の研究成果の一部を「鳥取環境大学紀要第7号」として発行。  
(平成21年3月に500部を発行)

掲載論文数：5編

大学等学外機関に308部、学内関係者124部送付

### (3) 学生生活

#### ア 平成21年度学生状況

[学部]

(2009年4月1日現在、単位：人 休学者は内数)

学 科 名	入 学 定 員	09年度生			08年度生			07年度生			06年度生			05年度生 以前		合 計	
		入 学	在 籍	休 学	在 籍	休 学	在 籍	休 学									
環境政策学科	166	-	-	-	96	94	2	105	98	2	152	142	2	22	2	356	8
環境デザイン学科	79	-	-	-	19	15	1	38	35	1	37	33	0	6	2	89	4
情報システム学科	79	-	-	-	26	22	3	46	41	5	41	34	0	14	4	111	12
小 計	324	-	-	-	141	131	6	189	174	8	230	209	2	42	8	556	24
環境政策経営学科	99	50	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50	-
環境マネジメント学科	99	54	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	54	-
建築・環境デザイン学科	39	23	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23	-
情報システム学科	39	25	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	-
小 計	276	152	152	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	152	-
総 計	-	152	152	-	141	131	6	189	174	8	230	209	2	42	8	708	24

\* 入学定員には編入定員を含まない

[大学院]

(2009年4月1日現在、単位：人、休学者は内数)

領 域 名	入 学 定 員	09年度生			08年度生			07年度生 以前		合 計	
		入 学	在 籍	休 学	入 学	在 籍	休 学	在 籍	休 学	在 籍	休 学
社会環境学領域	10	-	-	-	3	3	1	1	1	4	2
環境デザイン領域	5	3	3	-	2	2	-	2	1	7	1
情報システム領域	5	-	-	-	2	2	-	-	-	2	-
合 計	20	3	3	-	7	7	1	3	2	13	3

#### イ 授業日程等 (学部)

4 / 3、7、8	前期履修ガイダンス (2年生～4年生)
4 / 4	入学式
4 / 5、7、8	フレッシュャーズセミナー (1年生)
4 / 9	前期授業開始
7 / 23	前期授業終了
7 / 25～8 / 5	前期定期試験
9 / 25	後期履修ガイダンス
9 / 26	後期授業開始
H21. 1 / 20	後期授業終了
1 / 22～2 / 4	後期定期試験
3 / 20	学位授与式

## ウ 科目等履修生及び聴講生の受入

一般の方に修学の間を提供した。

前期：聴講生 2名（うち新規1名、継続1名）

後期：聴講生 3名（うち新規1名、継続2名）

## エ 教育懇談会及び進路相談会の開催

平成18年度以降入学者の保護者を対象に、学業成績、学生生活及び就職活動状況について教職員と懇談する教育懇談会を、下記3会場で開催。

11/1 大阪会場 参加保護者数11名（うち個別面談数 9名）

11/16 米子会場 参加保護者数26名（うち個別面談数14名）

11/23 本学会場 参加保護者数58名（うち個別面談数47名）

- 最終年次の学生（平成17年度以前入学者）の保護者を対象に、就職活動状況等につき進路相談会を開催。

11/23 本学会場 参加保護者数27組（個別面談のみ）

## オ 聴覚障害者に対する学習支援

次年度は、対象者が専門科目を受講する学年になり、また、学科も全学科にわたることとなる。一方、熟練者の卒業もあるため、その辺りも考慮し、パソコン要約筆記ボランティアの養成を積極的に行わなければならない。加えて、手指の機能ほかに障害のある学生の入学が予想されるため、その対応についても検討している。

- パソコン要約筆記者の養成並びに授業支援

要約筆記ボランティア養成講座：4/19 10:00～16:00並びに9/27 10:00～16:00

要約筆記ボランティア登録者数：20名で、前期26科目（うち集中2）後期12科目（うち集中1）に対応。

- 手話講座の開催：2008年度は開催せず。

## カ BDFスクールバス

運行期間：H20. 4～H21. 2（土・日・祝日、長期休暇時は運休）

運行区間：本学～JR津ノ井駅～JR鳥取駅 往復

運行便数：1日6便

乗降者数（延べ人数）：22,063人

1日平均乗降者数：127人

1便平均乗降者数：21人

BDFスクールバスでの通学が浸透し、利用者の増が見込まれることから、平成21年度からは、朝、夕のみBDFバス2台体制とする。

## キ 奨学金、授業料減免

成績が優秀であるにもかかわらず経済的な理由で修学が困難な学生を対象に、奨学金制度及び授業料減免制度に基づき奨学金を支給もしくは貸与及び授業料減免等の措置を講じた。

平成20年度から、授業料減免制度を拡充し、より手厚い支援を行った。

### 〔 授業料等減免 〕

県内出身の学部生については、その世帯の総所得額が県立高校の授業料減免基準に準じた所得基準に達しない場合、年度ごとに、授業料、実験実習費及び施設費（以下「授業料等」）の半額を免除する。

県外出身者の学部生については、学期ごとに各学年3～4名程度に対し、授業料等の半額を免除。大学院生については、学期ごとに3名程度に対し、授業料の半額を免除する。

( 半額免除 )

鳥取県出身学部生 減免対象者数 (年度ごとに授業料減免)

対象	免除金額/年	1年次	2年次	3年次	4年次	合計/人
環境政策学科	50万円	19	9	14	11	53
環境デザイン学科	65万円	4	6	3	5	18
情報システム学科	65万円	7	3	10	5	25
合計		30	18	27	21	96

\* 平成20年度から、鳥取県内出身の学生を対象に、県立高校の授業料減免制度に準じた所得基準を適用する授業料等(授業料・実験実習費・施設費)半額免除制度を実施している。

県外出身学部生・大学院生 減免対象者数 (半期ごとに授業料減免)

対象	免除金額/期	前期/人	後期/人	合計/人
大学院	25万円	3	5	8
環境政策学科	25万円	12	14	26
環境デザイン学科	32.5万円	2	3	5
情報システム学科	32.5万円	0	1	1
合計		17	23	40

\* 平成20年度から、半額免除の対象金額は、授業料・実験実習費・施設費との合計金額とする。

平成21年度からは、新たな就学支援として「鳥取環境大学奨学金」、「アパート代助成」、「兄弟姉妹施設費免除」の導入を行う。

( 鳥取環境大学奨学金 )

- ・ 環境活動部門：高等学校在学中に公的に認められた環境活動の実績を有し、入学後も学業並びに環境問題解決に積極的に取り組むことが期待される新入生に、年25万円を原則として在学中4年間支給する。
- ・ 文化・スポーツ活動部門：高等学校在学中に、文化部活動・運動部活動において全国的もしくは都道府県レベルで顕著な実績を有し、入学後も学業並びに課外活動等に積極的に取り組むことが期待される新入生に、年50万円又は25万円を原則として在学中4年間支給する。
- ・ 成績優秀部門：2年次から4年次までの学生で、前年度の成績が各学科の中で特に優秀で、他の模範と認められる在校生に、支給決定がなされた年度の授業料・実験実習費・施設費の合計額の半額を支給する。

( アパート代助成 )

実家を離れ、賃貸借契約によりアパート等に居住する在学生に対し、家賃の20% (月額1万円が上限) を助成する。

( 兄弟姉妹施設費免除 )

本学の卒業生又は在学生の兄弟姉妹が本学に入学した場合、入学した兄弟姉妹のうち2人目以降の者の施設費を免除する。

[ 鳥取市鳥取環境大学奨励金、日本学生支援機構奨学金、地方公共団体等その他の奨学金 ]

( 鳥取市鳥取環境大学入学奨励金 )

入学試験出願時に鳥取市に住所を有するか、または鳥取市内の高等学校を卒業した者に対し、鳥取市から入学金(25万円)の半額が交付される。

平成20年度交付実績: 62名

\* 大学院への入学に対して奨励金は交付されない

( 鳥取市鳥取環境大学就職奨励金 )

本学を卒業した翌年度末までに鳥取市内で就業し、かつ、鳥取市に住所を有する卒業生に対し、鳥取市から入学金(25万円)の半額が交付される。

平成20年度交付実績: 31名(全て学部生)

( 日本学生支援機構奨学金(貸与型) )

対 象	人 数	採用実績
大学院	14名	60.9% *
学 部	329名	40.7% *

\* 採用実績は本学学生総数に対する割合。

( 地方公共団体等その他の奨学金 )

学部 38名

( 特待生 )

一般入試A方式及びセンター試験利用入試前期の成績優秀者で特待生として選考され入学した者

学 年	環境政策学科	環境デザイン学科	情報システム学科	合計(学年ごと)
4年	3名	0名	0名	3名
3年	1名	1名	2名	4名
2年	3名	2名	2名	7名
1年	0名	0名	1名	1名
合計(学科ごと)	7名	3名	5名	15名

\* 優遇措置として鳥取市鳥取環境大学奨励金と学費(授業料・実験実習費、施設費)の一部免除との併用により、学費を全額免除。

\* 平成20年度以降については、鳥取市鳥取環境大学奨励金の制度変更により、本学が特待生全員の学費の全学を負担する。

## ク 学生生活相談

メンタル面に問題を抱えた学生が多くなっていることもあり、チューターとして学生に関わる教員からも、メンタルケアの心構え、スキルについて専門家の話が聞きたいとの要望が寄せられている。次年度早期にFDの一環として教職員向け研修会を実施する。また、学生だけでなく、保護者が学生の実状をどのように認識し、理解しているのかということについて問題のある事例もあり、保護者についても理解を求める努力をする必要のある場合がある。

- ・ 保健室における学生相談（随時実施）  
相談件数：延べ939件／年
- ・ 校医〔メンタルヘルス、スポーツ、一般内科〕による健康相談（毎月実施）  
相談件数：延べ 34件／年

相談内容	件数	全体の割合
カウンセリング	501件	53.4%
健診結果通知（就職活動関連）	115件	12.2%
難病他	98件	10.4%
呼吸器系疾患（風邪等）	62件	6.6%
その他	163件	17.4%
合計	939件	—

## ケ 学生フォロー制度の実施

新入生を対象に、3学科共通の必修科目の出欠状況をチェックし、欠席回数が多い学生についてチューター（各学科の担任教員）もしくは職員が面談を通じて欠席原因を把握し、問題点を早期に解決して有意義な学生生活を送れるよう支援することを目的として、平成18年度から実施。問題が解決されない場合には引き続き支援を継続。

この制度によって抽出されなかった学生、或いは、2年生以上であっても、問題を抱えた学生については、教職員（保健師を含む）が連携し、必要とあれば保護者も交えて、問題解決を支援。

## コ 大学公認クラブ（部・同好会）

組織	体育系	文化系	合計（組織ごと）	備考
部活	11	11	22	構成員 10名以上
同好会	16	19	35	構成員 5名以上
合計（系統ごと）	27	30	57	—

## サ 学生表彰

### [ 学生年度表彰 ]

課外活動、社会活動、大学活性化等、1年間を通じて顕著な成績を残した団体・個人を表彰

表 彰 式：H21. 1/14

課外活動 体育部門：2名と1団体

課外活動 文化部門：2名

社会活動部門：6団体（うち環境分野3団体）

アクティビティ部門：3名と4団体

### [ 卒業生表彰 ]

4年間の学業成績が各学科トップの者及び課外活動、社会活動、活性化等での功績が顕著な者を表彰

表 彰 式：H21. 3/20（学位授与式において）

成績優秀者：各学科1名

課外活動 体育部門：1名

課外活動 文化部門：2名

社会活動部門：4名（うち環境分野1名）

アクティビティ部門：5名（うち環境分野1名）

## シ その他学生関連行事・活動状況等

- ・ 鳥取しゃんしゃん祭への参加  
8/9 しゃんしゃん傘踊り（一斉踊り）に本学学生86名と同窓生23名が「鳥取環境大学連」として参加。
- ・ 第8回環謝祭の実施  
10/11～12本年度は音楽イベントを中心に実施。高月紘氏を迎えて特別講演会を行った。
- ・ 第5回環大コンペ表彰式（鳥取環境大学を支援する会からの支援事業）  
大学生活向上或いは地域社会に貢献する優れた企画を実施する団体個人に賞金授与。  
1位：鳥取環境大学キャンパスリユース2008  
2位：日本列島を軽くしよう！～JUMP～  
3位：SAKYU 自由学園7月 DAY キャンプ、竹林を中心とした里山再生プロジェクト、鳥取環境大学駅伝チームの結成
- ・ 京都大学、京都産業大学、本学合同ゼミ  
7/5本学にて「海洋環境をめぐる諸問題」をテーマに3大学合同ゼミを実施。本学学生2名が報告を行った。
- ・ 米子鳥取間駅伝競走に初参加  
11/8～9の米子鳥取駅伝競走大会に初参加。60チーム中36位。

#### (4) 大学広報と入学試験

##### 【 大学広報 】

###### ア 第5回環境論文募集と発表会の実施

地球環境問題について高校生の意識を高めることを目的として、第5回環境論文の募集を行った。今回のテーマは「水とわたしたち」で、全国22都道府県39校から過去最高の1,423作品の応募があり、10/12に発表会及び表彰式を開催した。

表彰式終了後、第2部として学生組織である学友会からの活動報告があり、その後、環境マンガでも有名な石川県立大学教授の高月紘さんが「地球環境問題と私たちのくらい」というタイトルの講演会を行った。

応募総数及び県内からの応募数は増加したが、応募都道府県数が昨年と同様、また高校数が減少した。今後はさらなる応募数及び応募都道府県数・高校数増のため、新聞広告の活用、高校訪問時の案内等広報に力を入れる。また発表会当日の参加者も少なかったため、県内高校への参加依頼による動員を図るとともに、第2部の内容を見直す。

##### 〔 応募数の推移 〕

区 分	第1回 (H16)	第2回 (H17)	第3回(H18)	第4回 (H19)	第5回 (H20)
応募総数	554	850	1,088	1,352	1,423
(県内応募数)	(23)	(4)	(87)	(318)	(453)
応募都道府県	28	25	25	22	22
高校数	48	54	55	45	39

##### 〔 表彰者 〕

###### ( 個人の部 )

賞名	論文タイトル	氏名	高校名	学年
環境大賞	川と共に生きる	宮本 彩	島根県津和野高等学校	1
鳥取県知事賞	環境戦士 エコ・イエローは考える	五十川 諒	兵庫県立三木高等学校	2
鳥取市長賞	湖山池の環境問題	森 文香	鳥取県立鳥取東高等学校	2
新日本海新聞社賞	まもりたい	中上 祥恵	徳島県立池田高等学校	2

\*上記の他、佳作3件

###### ( 団体の部 )

賞名	高校名	応募数	所在地
学校賞	愛知県立岡崎商業高等学校	301	愛知県
〃	鳥取県立鳥取東高等学校	295	鳥取県
〃	鳥取県立鳥取西高等学校	155	〃

\*上記の他、応募数の多い高校13校に奨励賞を授与

## イ マスコミへの資料提供

本学関連のイベントや、教員の研究活動、学生の活動等について、99件の情報を各マスコミに提供し、その内容が新聞やテレビなどに103回取り上げられた。

掲載等の取り上げられた比率は提供数の104%と非常に高かった。(関連する記事掲載等により100%を超えた数値になっている)

今後も引き続き情報提供を積極的に行う。

## ウ パンフレット類の作成

受験生、保護者、高校教員、一般向けに、次のパンフレット類を作成し、それぞれ高校・企業・在学生の保護者等への送付、高校訪問、進学相談会、オープンキャンパス、企業懇談会などでの配布を行い、大学の広報資料として活用した。

- ・ 大学案内
- ・ パンフレット「ECO」(2種類:女子学生向け、就職内定版)
- ・ 学報「若葉台レポート」(年2回:保護者等向け)
- ・ その他、出前講義メニュー、ポスター、チラシ等

## エ 広報媒体による広報活動

受験雑誌、Web広告、新聞広告等の広報媒体を用いて、主として受験生に対して本学の魅力・学科の内容、研究活動などをアピールし、学生募集活動を行った。資料請求者などの接触者総数は4,990件と対前年124%と大きく伸びた。また、接触者実数も3,939件と117.5%と大幅に伸びた。しかし、直接志願増には結びつかなかった。

効果的な時期・媒体の検討や、魅力的な内容に変更することにより、志願者増を目指す。

## オ オープンキャンパスの実施

学生確保策の一環として、6/14(土)、8/2(土)3(日)、10/5(日)に本学においてオープンキャンパスを実施した。本学の施設見学、学科の模擬授業、大学の概要説明、受験相談などを実施した。4日間で、受験生、受験生の保護者、高校教員、一般来場者など計613名で昨年より175名減少したが、受験対象者(高校生)が222名と昨年の216名に若干増加した。イベントの見直しや告知方法を改善して、参加者増を目指す。

## カ 高校訪問の実施

県内外の高校に本学の内容を周知するため、延べ1,014校と昨年により250校以上多く訪問し説明と本学への出願の依頼を行った。年度当初の学長の県内高校の訪問を含め、県内に近県には高校担当参与による訪問を重点的に行った。また在学生による母校訪問も展開した。

今年度は入学者は昨年より11名増加したが、志願者数の減少を止められなかったが、更に効果的な訪問時期の検討、訪問資料の改善、訪問先の検討・拡大を行い、精力的に高校訪問を実施する。

## キ 高校内説明会の実施

高校説明会は直接高校生と接触できる機会であり、本学のことを詳しく伝えられるため、積極的に参加した。実績は昨年より16校増え45校、833名の生徒に対し説明を行った。今後も参加高校を増やしていく。

また、高校教員対象説明会を、9/29及び30に鳥取県東部と西部で開催した。学長挨拶、学科長による学科の説明及び学生によるプロジェクト研究の発表などを行い、教員からの評価は高かった。

## ク 進学相談会への参加

本学主催の相談会も含め、全国各地で行われる進学相談会に出展し、本学に興味を持つ来場者(高校生、高校教員、保護者)に本学の魅力をアピールした。

会場数は27会場、本学訪問者は96名であった。会場数を4会場増やしたため訪問者も昨年と比べ20名ほど増加した。今後は場所や日程について検討していく。

## ケ その他

県内高等学校校長会において、学長より本学のアピールを行った。

## 【 平成21年度広報計画 】

環境マネジメント学科の設置、既設学科の名称変更などを含め充実を図り、また奨学金制度の導入や県内出身者に対する手厚い授業料減免等の施策により、入学者が開学以来初めて増加した。ただし、志願者数は減少しているため、以下のポイントに重点を置き効果的、効率的な広報施策を実施する。

- ①学長メッセージや全国レベルのプロジェクト研究等を地元紙及び全国紙を通じて発信する。
- ②重点地域(県内、隣接県、中四国)への高校訪問を充実する。
- ③高校内ガイダンスへの積極的参画など、高校生と直接触れ合う機会を拡大する。
- ④受験情報誌及び受験情報サイトを活用して、情報発信を充実する。

## 【 入学試験 】

### コ 学部入試

区分	学科	募集 定員	志願者			合格者			入学者		
			本年度	前年度	比 率	本年度	前年度	比 率	本年度	前年度	比 率
合計	環境政策経営	99	84	205	△12.2%	77	187	△11.2%	50	96	108.3%
	環境マネジメント	99	96			89			54		
	建築・環境デザイン	39	34	35	△2.9%	31	31	±0.0%	23	19	121.1%
	情報システム	39	45	58	△22.4%	35	39	△10.3%	25	26	△3.8%
	計	276	259	298	△13.1%	232	257	△9.7%	152	141	107.8%
編入学 (1・2期)	環境政策	2	3	2	150.0%	3	2	150.0%	2	2	±0.0%
	環境デザイン	2	2	0	—	2	0	—	2	0	—
	情報システム	2	2	1	200.0%	0	1	—	0	1	—
	計	6	7	3	△25.0%	5	3	166.6%	4	3	133.3%

\* 本年度志願者には社会人、留学生を含む。

## [ 志願者 ]

### ( 学科別志願者 )

総志願者数は259名で昨年に比べ39名減少し、対前年比は△13.1%であった。改編を行った環境政策経営、環境マネジメント両学科を合わせて25名の減少(△12.2%)、特に情報システム学科は13名減少し、対前年比△22.4%と大きく下回った。建築・環境デザイン学科は1名の減で△2.9%であった。

### ( 鳥取県内志願者 )

前年に比べ3名減少した(△2.1%)。東部地区は15名減少(△13.9%)、中部は変わらず、西部は7名の増(+50%)であった。

### ( 鳥取県外志願者 )

昨年に比べ36名(△23.7%)減少した。特に目立つのは島根県で11名減(△37.9%)となった。

**( 入試区別志願者 )**

全体の志願者が減少している中、AO入試のみ増加している。

なお、指定校推薦やAO入試で7割以上を占める県内の志願者減が大きく影響している。

	AO I	指定校推薦	公募推薦	一般入試A
志願者数	28名	32名	30名	62名
前年志願者	22名	38名	34名	87名
差引き	+6名	△6名	△4名	△25名
比率	+27.3%	△15.8%	△11.8%	△28.7%

**[ 入学者 ]**

**( 学科別入学者 )**

総入学者数は152名で昨年に比べ11名増加(対前年比+7.8%)した。前年数を上回ったのは開学以来初めてである。入学定員(276名)充足率は55.1%であり、内訳は環境政策経営学科50.5%、環境マネジメント学科54.5%、建築・環境デザイン学科59.0%、情報システム学科64.1%である。

**( 入学手続率 )**

合格者の入学手続率は、65.5%で、昨年の54.9%から10ポイント以上アップした。特に一般入試A方式の手続率は41.2%と前年の31.8%に比べ10ポイント持ち直した。センター試験利用入試1期も32.6%で、昨年の27.9%を大きく上回った。

県内、県外別にみると、県内は73.2%で昨年の73.9%と変わらないが、県外は56.9%で、昨年の38.4%より大幅アップとなった。

**( 鳥取県内入学者 )**

県内のエリア別入学者は、東部は変わらず、中部は減(△4名)、西部は増加(+4)となった。

**( 鳥取県外入学者 )**

県外入学者は総じて伸びており、入学手続率の高さからも出願先を絞っている傾向が見える。入学者の出身地は全国に及んでいるが、特に北海道、青森、沖縄等の遠隔地から女子が入学したのが特徴的である。

## サ 大学院入学試験の実施

区分	領域	募集 定員	志願者			合格者			入学者		
			本年度	前年度	比 率	本年度	前年度	比 率	本年度	前年度	比 率
合計	社会環境学領域	10	0	3	0.0%	0	3	0.0%	0	3	0.0%
	環境デザイン領域	5	4	3	+33.0%	4	3	+33.0%	3	2	+50.0%
	情報システム領域	5	0	2	0.0%	0	2	0.0%	0	2	0.0%
	計	20	4	8	△50.0%	4	8	△50.0%	3	7	△57.1%

### [ 入試結果 ]

志願者は環境デザイン領域のみで4名、前年度に比べ、全体で4名減少した。志願者は全員本学の学部生であった。

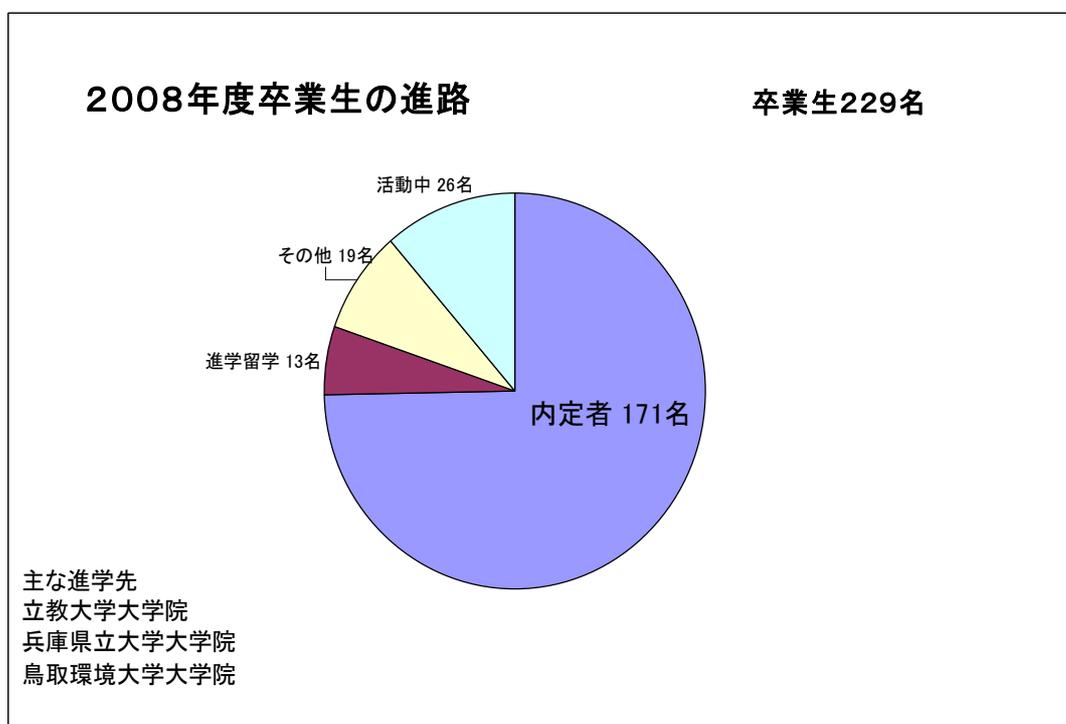
### [ 今後の対策 ]

大学院案内・ポスターを作製し、学科と関連のある大学に配布し、大学院を積極的に広報する。また、今後は社会人が入学しやすいような方策を検討していく。

## (5) 就職等進路支援

### 就職結果

### [ 進路分布 ]



[ 学科・領域別就職内定結果 ]

1. 学部学科別内定状況

	環境政策学科			環境デザイン学科			情報システム学科			全学		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
卒業者(A)	114	35	149	32	12	44	31	5	36	177	52	229
就職希望者(B)	99	31	130	25	9	34	28	5	33	152	45	197
進学・留学者	8	1	9	2	2	4	0	0	0	10	3	13
その他※	7	3	10	5	1	6	3	0	3	15	4	19
内定者(C)	87	27	114	23	6	29	24	4	28	134	37	171
内定率(C/B)	87.9%	87.1%	87.7%	92.0%	66.7%	85.3%	85.7%	80.0%	84.8%	88.2%	82.2%	86.8%
就職率(C/A)	76.3%	77.1%	76.5%	71.9%	50.0%	65.9%	77.4%	80.0%	77.8%	75.7%	71.2%	74.7%

※アルバイト、公務員受験浪人等

2. 大学院領域別内定状況

	社会環境学領域			環境デザイン領域			情報システム領域			院合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
修了見込者(A)	2	0	2	4	0	4	6	0	6	12	0	12
就職希望者(B)	2	0	2	4	0	4	6	0	6	12	0	12
進学・その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内定者(C)	2	0	2	3	0	3	6	0	6	11	0	11
内定率(C/B)	100.0%	0.0%	100.0%	75.0%	0.0%	75.0%	100.0%	0.0%	100.0%	91.7%	0.0%	91.7%
就職率(C/A)	100.0%	0.0%	100.0%	75.0%	0.0%	75.0%	100.0%	0.0%	100.0%	91.7%	0.0%	91.7%

[ 主な内定先 ]

( 学部 )

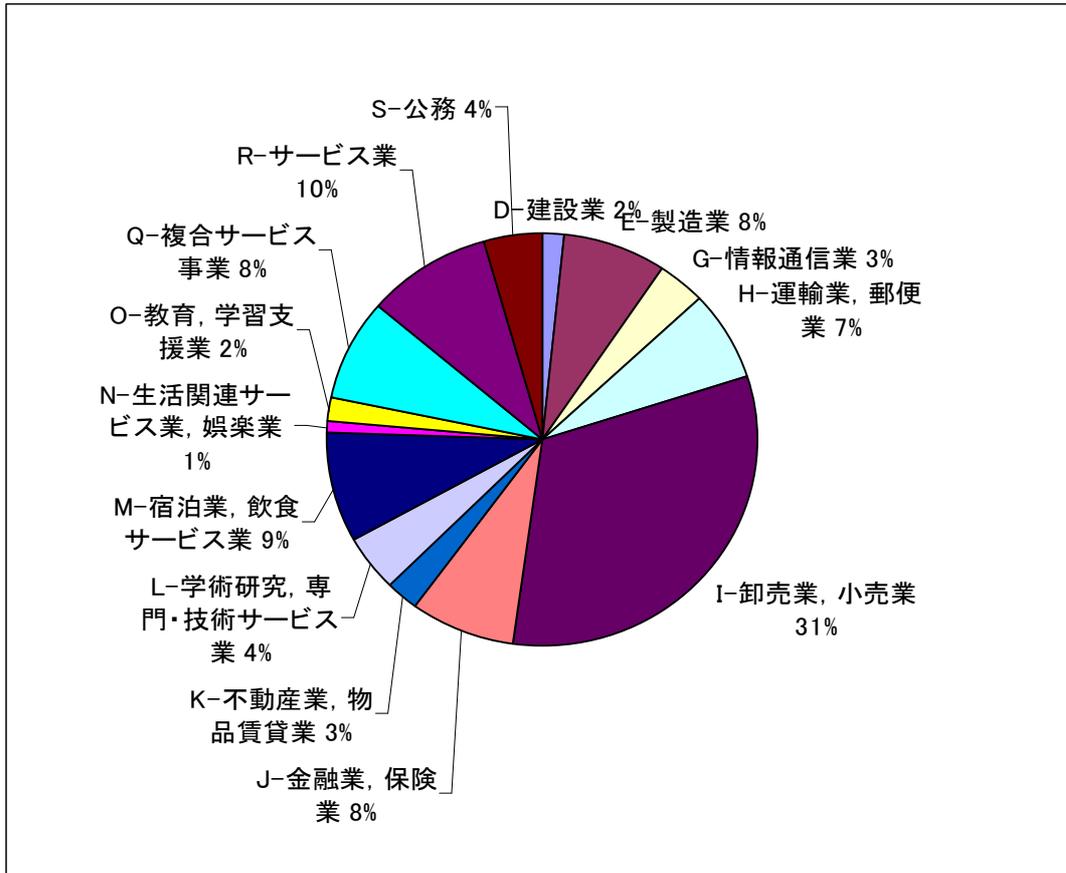
業種	県外企業
農業、林業	
建設業	伊ヶケン、シブヤパ化〇ンク工業、島根電工、住友不動産リフォーム、セキスイハイム中四国、大和ハウス工業(2)、タマホーム、パナソニック電工ホームエンジニアリング、パナホーム兵庫、東日本ハウス、フレッシュハウス
設計事務所	池下設計
製造業	川上食品、川島織物セルコン、ダッペモト電機、高橋工業(2)、日本研紙、フジッコ、正光、マルチ(3)、水谷ペイント
情報通信業	NICネットシステム(2)、エムアットシーシステム、シーエスサービス、ジエスソフト、日本ラット(2)、フレインワークス、プロトコレーション、ユー・エス・イー
運輸業	岡山県貨物運送、JR九州、JR西日本(4)、JR東日本、ヤマト運輸
卸売・小売業	あおき、旭食品、イオンテール、キセキ中国、ワキ、オートバックスセブン、カインズ、熊本大同青果、コダアイ、コメリ(2)、雑貨屋ブルドック、サンゲン、サンコーインダストリー、ジュンテンドー、ダイイチ、大冷、天満屋ストア、東京靴、常磐メテイルサービス、トライムカンパニー、ドラッグイレブソン、サンバ、西日本フード、平林金属、フーズマーケットホック、不二貿易、米良電機工業、山武商会、ライ
金融・保険業	かんぼ生命保険、山陰合同銀行(3)、兵庫県信用漁業協同組合連合会
不動産業	共立メンテナンス、グローバル住販、山陰ステーション開発、積和不動産中国
飲食店・宿泊業	くらこホステーション(3)、サンデーサン、ジョイフル、大和リゾート、日本マクドナルド、はま寿司、ワタミ
医療・福祉	
教育・学習支援業	京急油壺マリンパーク
複合サービス業	石見銀山農業協同組合、東宇和農業協同組合、郵便局(2)
サービス業	荏原エンジニアリングサービス、ジェットシステム、セコム山陰、総合警備保障(6)
公務	新居浜市(臨職)、防衛省

業種	県内企業
製造業	寿製菓、三洋エジター鳥取、テクノカ、日段
情報通信業	エコーシステムクリエイター
運輸業	日本交通、日ノ丸自動車
卸売・小売業	えびす本郷、ススキ自販鳥取、鳥取マツダ、トヨタロー鳥取、ネットヨク山陰、バルコス(2)、ホンダカーズ鳥取、山野商事
金融・保険業	かたや証券、倉吉信用金庫、JA共済連鳥取県本部、鳥取銀行(2)、鳥取信用金庫
不動産業	
飲食店・宿泊業	
医療・福祉	
教育・学習支援業	鳥取環境大学
複合サービス業	JAいなば(4)、鳥取県森林組合連合会、丸合(2)
サービス業	三光、自然公園財団、鳥取県商工会連合会
公務	鳥取県(臨職)、鳥取県警(3)、鳥取県観光事業団

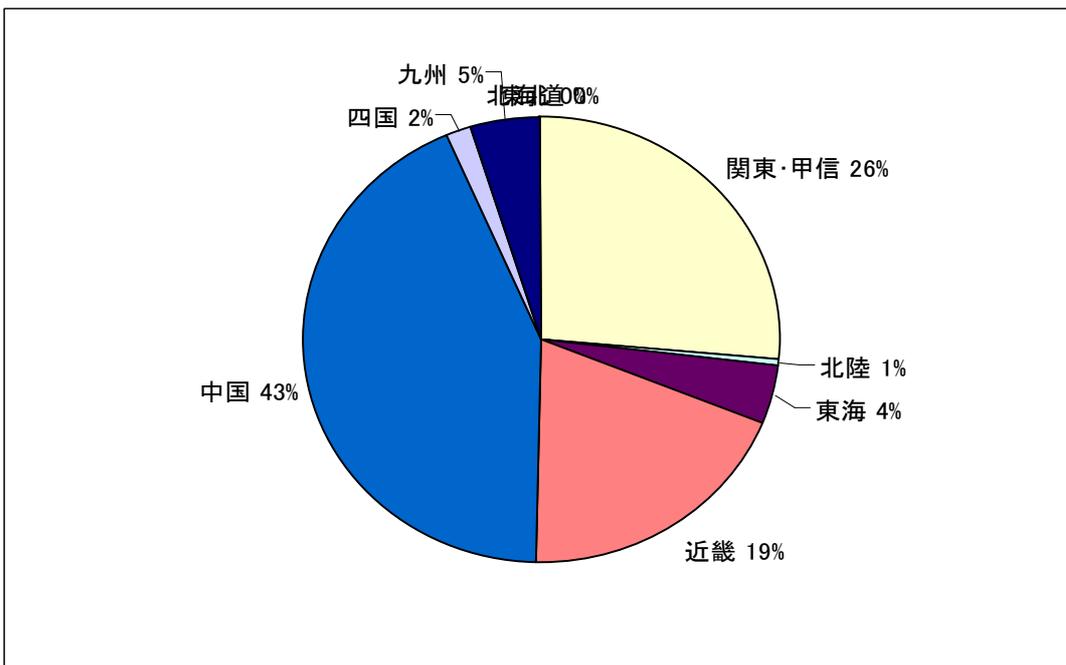
( 大学院 )

大和ハウス工業、三洋電機CE、矢崎総業(2)、ソフィア、日本住宅パル工業、三経フードサービス、中国管区警察局、名鉄クリーニング、米子自動車学校、鳥取県森林組合連合会、ペタリビソクつくば建築試験研究センター
--

[ 就職先業種別グラフ ]



[ 就職先地域別グラフ ]



[ 鳥取県内出身者の県内就職状況 ]

項目	政策	デザイン	システム	合計	比率	4期生	3期生	2期生	1期生
県内出身者⇒県内就職	25	9	2	36	38.3%	58.0%	57.0%	57.5%	65.1%
県内出身者⇒県外就職	29	6	23	58	61.7%	42.0%	43.0%	42.5%	34.9%
内定者数 小計	54	15	25	94					
未内定者数	4	2	4	10					
小 計	58	17	29	104					
県内出身者の就職内定率	93.1%	88.2%	86.2%	90.4%		93.5	93.4%	93.8%	95.0%
県外出身者⇒県内就職	6	1	0	7	9.1%	4.6%	11.5%	12.0%	9.7%
県外出身者⇒県外就職	54	13	3	70	90.9%	95.4%	88.5%	88.0%	90.3%
内定者数 小計	60	14	3	77					
未内定者数	12	3	1	16					
小 計	72	17	4	93					
県外出身者の就職内定率	83.3%	82.4%	75.0%	82.8%		94.2	95.8%	92.6%	92.4%

[ 進路支援スケジュール ]

開催月	対象	行事	内容
4月	1年生	キャリアデザイン講座	新入生のキャリアデザイン
4月	2年生	キャリアデザイン講座	2年生のキャリアデザイン
4月	3年生	キャリアデザイン講座	3年生のキャリアデザイン
4月	4年生	就職ガイダンス1	就職活動の中間チェック
4月	3年生	適職診断事前説明会	R-CAPを利用した自己発見
4月	4年生	学内企業研究会	県内企業を中心とした企業セミナー
4月	3年生	適職診断試験	R-CAPを利用した自己発見
5月	4年生	就職ガイダンス2	県内企業ガイダンス
5月	3年生	インターンシップ説明会	インターンシップの意義
5月	3年生、M1	就職ガイダンスI	公務員採用試験について
5月	3年生	適職診断事後解説会	R-CAPを利用した自己発見
5月	3年生、M1	就職ガイダンスII	就職ナビについて、職種について
6月	3年生、M1	就職実践講座①	自己分析・自己PR
6月	3年生、M1	就職ガイダンスIII	就活の流れ、企業が採用した人
6月	3年生	大学院ガイダンス	大学院での研究生活内容
7月	3年生	インターンシップ事前研修会	マナー研修、諸手続きについて
8月～9月	3年生	インターンシップ実習	研修先に派遣
9月	1年生	進路ガイダンス1年	就職に向けて
9月	2年生	進路ガイダンス2年	筆記試験対策講座の案内
9月	3年生、M1	就職ガイダンスIV	本年度の動向、就職ナビの使い方
10月	3年生	個人面談	個別に進路指導を実施
10月	3年生、M1	就職実践講座②	履歴書、エントリーシートの書き方
10月	3年生	筆記試験対策模試	SPI試験対策模擬試験
10月	3年生、M1	就職実践講座③	マナー研修
10月	3年生、M1	就職ガイダンスV	4年生による就職活動報告会
10月	3年生	筆記試験対策模試解説	SPI試験について解き方解説
10月	3年生、M1	面接練習	個人、集団、グループディスカッション練習
10月	3年生	インターンシップ報告会	インターンシップの実習結果を報告
11月	3年生、M1	就職実践講座④	面接試験対策
11月	2、3年生、M1	業界研究会	各業界の業務内容等の説明
12月	3年生、M1	就職ガイダンスVI	企業紹介ガイダンス
12月	3年生、M1	就職実践講座⑤	若者仕事ぶらざによる就職支援セミナー
1月	3年生、M1	就職ガイダンスVII	今後の就活の進め方、学内手続き
1月	3年生、M1	OB・OG進路相談会	OB・OGからの業界説明
2月	3年生、M1	就職支援バスの運行	関西地区就職フェア参加
2月	3年生、M1	学内企業研究会①	県外企業を中心とした企業セミナー
3月	3年生、M1	就職支援バスの運行	中国・関西地区就職フェア参加
3月	3年生、M1	学内企業研究会②	県内企業を中心とした企業セミナー

## [ 進路支援施策 ]

### ( 就職ガイダンス等の開催 )

3年生対象：20回 うち4回は外部講師の「就職実践講座」、1回は若者仕事ふらざ主催「就職セミナー」を実施。企業の採用活動状況に合わせ、実践的な内容をできるだけ前倒しして実施した。

2年生対象：2回 前期：今から考えるキャリアデザイン 後期：自分に合った仕事の見つけ方

新入生対象：2回 前期：進路ガイダンス 後期：就活の準備／充実した学生生活

4年生向「県内企業紹介ガイダンス」(5/1、7/2)

県内の募集中企業を紹介。初回を前年より早い時期に実施し、さらに前期試験前に再度まだ募集中の企業を紹介した。

3年生向「関西企業紹介ガイダンス」(12/11)

関西地区担当参与の開拓企業を紹介。西田参与にも参加して頂き、他企業を受験する場合より有利な点を説明、積極的な応募を促した。また紹介した多くの企業が学内合同説明会にも参加することを伝えたため、合同説明会への積極的な参加に結びついた。

### ( 学内合同企業説明会の開催 )

1回目 (H21. 2/5～6)

参加企業団体41社 学生参加者約150名

2回目 (H21. 3/16)

参加企業団体26社 学生参加者約60名

[3回目は平成19年4月16日実施 参加企業12社 学生参加者43名]

### ( 面接練習の実施 )

1回目 (11/13～14)

リクルート担当者による集団面接の練習 参加者 3年生 20名

2回目 (12/18)

若者仕事ふらざ主催就職セミナー グループディスカッションと集団面接

3回目 (H21. 1/15)

ディスコ担当者で実施。個人面接練習 参加者 20名

以降は希望者に対し随時実施中。

### ( インターンシップの派遣 )

派遣時期 : 8月～9月の2週間

派遣先数 : 24団体 (29団体)

派遣学生数 : 29名 (44名)

\* カッコ内は前年

( **企業懇談会の開催** )

岡山会場 [10/17]: 27企業参加 (18企業)  
東京会場 [10/24]: 20企業参加 (16企業・団体)  
大阪会場 [11/ 7]: 34企業団体参加 (36企業・団体)  
米子会場 [11/14]: 12企業参加 (17企業・団体)

\* カッコ内は前年

( **業界・企業研究** )

鳥取県の企業・産業紹介フェア (鳥取県商工労働部が主催)

11/13県内有力企業15社が参加。講義形式で1社15分程度でPR。延べ350名が各社の説明を聞いた。

( **業界研究会** )

11/20、27、12/11の3日間で9社の採用担当者を招聘。のべ150名が参加。昨年よりも参加する学生は増加し、危機感を感じることが出来た。また、学生数の減少に合わせ招聘企業を絞ったことで1社当たりの参加学生が増加し効果も上がったと思われる。

( **個別面談** )

10/5～11/6まで予約制で実施、約100名と面談。その後は予約なしで適宜実施。

( **ECO検定** )

第4回 7/20 本学において実施

本学 受験者 23名 合格者 12名 (合格率52.2%)

全国 受験者 14,983名 合格者 11,942名 (合格率79.7%)

第5回 12/21 本学において実施

本学 受験者 35名 合格者 18名 (合格率51.4%)

全国 受験者 22,018名 合格者 14,267名 (合格率64.8%)

( **その他就職・進路支援策** )

就職支援チャーターバスの運行

3/11 每ナビ就職EXPO 参加18名

借上宿舍の提供 (学生負担1泊2,000円 H21.2/8～6/8)

東京1室 大阪2室

利用状況 (H21.2/8～3/31)

東京 12泊 (24) 関西 25泊 (50)

\* カッコ内は前年

## 資格取得支援制度

学生の自己啓発推進とキャリア形成及びより有利な就職活動の展開を目指し、昨年より資格取得支援制度を創設した。

### <制度の概要>

大学が指定する資格試験に合格した場合受験料の半額を補助する。

### <利用実績>

資格試験数 28種類 (14種類)

資格支援制度利用状況

利用申請者	交付申請者	主な取得資格
167名	62名	ビジネス能力検定2級 ビジネス文書検定2級 秘書検定2級 ファイナンシャル・プランニング技能検定3級 簿記検定試験2級 など

申請者 ECO検定 63名 (114名)

合格者 ECO検定 30名 (60名)

補助額 143,200円 (183,100円)

#### \* カッコ内は前年

資格試験数が倍増、制度が周知され様々な資格を目指す学生が申請してきた。資格取得意欲の増進に貢献していると思われる。一方ECO検定の受検者が急減しており対策を講じる必要がある。

同窓会との共催でOB・OGによる「行列のできる就職相談会」開催

参加者 相談員 (OB.OG 23名) 学生 50名 (1年～4年)

## (6) 学外交流

### ア 高校との交流・連携

- ・ 県立高等学校との交流連携を図るため、教職員の相互派遣による授業を実施。  
派遣：6校 延べ16名  
受入：1科目 (建築の数学基礎) 1名
- ・ 高等学校への環境教育の推進を目的に、鳥取情報ハイウェイ等の高速情報網を活用した『遠隔環境教育』を実施した。  
実施：1校 (米子工業高校 7/17)

## イ 地域イベント・社会連携・国際交流事業の開催・参画

### [ 地域イベント ]

地域に開かれた大学の実現を図るとともに、地域社会へ研究・教育の成果を還元するため、主催事業を開催するほか、地域で開催されるイベントに大学として参画。

アンケート等の結果によっても、これらのイベントに対する満足度は高く、地域貢献という大学の使命の1つを果たしていると考えます。また、学生がこうしたイベントに参加することで、学生に対する教育効果も期待できます。今後も引き続き、地域イベントの開催及び参画を行う。

イベント名	開催日	主催	会場	備考
地球環境講演会～G8北海道洞爺湖サミットを前に地球環境問題担当特命全権大使を迎えて～	4/26	鳥取環境大学	とりぎん文化会館	550名
鳥取県環境フォーラム in 鳥取環境大学	〃	〃	鳥取環境大学	110名
公開セミナー「ごみ学のすすめ」	10/2	〃	〃	60名
シンポジウム「高効率ごみ発電による低炭素社会の実現」	東京会場 10/21 大阪会場 10/23	鳥取環境大学、廃棄物工学研究所	国連大学、経営支援プラザUMEDA	195名
宇宙から考える地球環境問題	11/1	鳥取環境大学、JAXA	鳥取環境大学	70名
地球環境講演会Ⅱ～いま地球で何がおこっているか～	平成21年 1/25	鳥取環境大学	さざんか会館	30名

## [ 公開講座の実施 ]

地域に開かれた大学の実現を図るため、公開講座を実施した。平成19年度より、県西部でも県東部と同内容の講座を実施し、平成20年度においても、県東部、県西部で2シリーズ、計18回の講座を実施した。平成21年度においても、県東部、県西部での開催を継続し、固定層の満足と新規層の取り込みに努める。

シリーズ	タイトル	開催日	受験者数
地球温暖化について考える	中国の環境問題と地球温暖化 ～発展途上国の一例として～	5/10、5/31	鳥取会場 268名 米子会場 180名 合計 448名
	地球温暖化と私たちにできること	6/7、6/14	
	地球温暖化問題と森林管理	7/5、7/12	
	自動車と地球温暖化対策	8/2、8/9	
	工業分野の地球温暖化対策、最先端	9/6、9/13	
	西欧の文化と環境の課題	10/11、10/25	
生活に役立つ情報技術	インターネットと身近な環境	11/1、11/8	鳥取会場 123名 米子会場 56名 合計 179名
	携帯電話 ～光と影と、上手な付き合い方～	12/6、12/13	
	自分の健康は自分で作る～人体内通信 を利用したe健康サービス～	H21. 2/14、2/21	

## [ 国際交流事業 ]

海外の大学との研究交流

提携状況	国名	大学名	締結・協定日
締結完了	ニュージーランド	ユニテック工科大学	H12. 11
	フランス	パリーベルビル建築大学	H14. 8
	デンマーク	オーフス建築大学	H15. 9
	ロシア	ロシア極東国立総合大学	H15. 10
	韓国	清州大学校	H19. 8
事前協定	中国	吉林大学	H14. 8
	韓国	江原大学校	H14. 8

## [ その他 ]

- ・ 2008日中友好クブチ砂漠植林サミットへの学生参加 (5/17～18)
- ・ 日・韓水産セミナーへの教員派遣 (5/28)
- ・ ドイツ環境保全展 (ポスター展) (10/1～15)
- ・ 中国太倉市視察受入 (11/27)

## ウ 学生の海外派遣及び留学生との交流

### [ 大韓民国江原道春川市の翰林（ハルリム）大学校学生との交流 ]

開催日：7/9

参加人数：本学学生11名

内 容：翰林（ハルリム）大学から10名の学生が来学し、本学学生と交流・親睦をはかった。

## エ 研究交流活動

### [ 出展事業 ]

展示会へ出展し、本学の研究成果等を広くアピール。

今後も各イベントの趣旨、開催規模、来場者層等及び出展条件等を勘案しつつ出展を行う。

イベント名	開催日	開催場所
環境フェア in KOBE	5/24～25	神戸市
NGO・NPOの広場	〃	〃
メッセナゴヤ	9/11～14	名古屋市
鳥取サイエンスワールド	9/15	米子市
産学官連携フェスティバル2008	10/17	鳥取市
ECO フェスティバル	10/26	米子市
エコプロダクツ2008	12/11～13	東京江東区
NIKKO フェア（日興商会ビジネスフェア）	H21. 2/5～6	兵庫県尼崎市

**[ 産官学連携推進事業 ]**

鳥取市若葉台地区に所在する県産業振興機構、発明協会県支部、県産業技術センター、企業数社により構成される「四季の会」等をメンバーとする「わかばだい連携倶楽部」ほか、連携推進のための会議・会合に本学教職員等が参加。また、商工会議所との交流会にも参加している。

平成21年度も引き続き上記会合には参加していく。県内他団体、企業等との交流・連携により本学の存在はある程度認知されているが、さらに産官学の連携を推進し、本学の認知度の向上に努める。

平成20年度は、新規に中国地域産学官連携コンソーシアム、鳥取テクノヒルズへ参加した。

事業名	開催日	開催場所
中国地域産学官コラボレーション会議	6/19、7/17~18、 12/19、H21. 2/18	下関市 ほか
鳥取県産学金官連携企画推進会議	4/19	鳥取市
鳥取県中部地区産学金官連携推進連絡会	9/26、12/19	〃
産学官連携推進会議	6/14	京都市
中国地域産学官連携コンソーシアム	H21. 2/3、27	鳥取市
わかばだい連携倶楽部	12/24	〃
四季の会	4/22、11/7	〃
鳥取テクノヒルズ	H21. 1/22	〃
産学官連携サミット	11/4	東京都港区
鳥取環境大学を支援する会総会	7/4	鳥取市
鳥取市、鳥取商工会議所との産学官連携懇談会	H21. 2/24	〃
ほんまちクラブ	7/1、10/17、 H21. 1/30	〃
中部元気クラブ	4/22、7/22、9/26、 10/17、H21. 1/27	倉吉市
米子6:00クラブ	4/25、6/20、8/29、 10/17、H21. 1/23	米子市

## (7) 環境関連活動

### ア ISO 事業

#### [ 外部審査 (サーベイランス) 関係 ]

審査機関名：株式会社日本環境認証機構

審査日：H21. 1/19～20

審査結果：更新「合格」(改善点として9点の指摘あり)

今年度実施された更新審査で9点の改善点が指摘された。平成21年度では指摘された9点の改善点に取り組み、本学EMSの向上・改善に努める。

#### [ 内部監査関係 ]

内部監査員養成：9/22、24、26、29、30

内部監査実施期間：11/12～25

内部監査責任者：環境デザイン学科 教授 中村貴志

内部監査員(教職員14名、学生16名)13チーム編成し、16部署を監査。

理事長への中間報告及び最終報告：12/17、H21. 3/25

内部監査員(学生)が減少しているため、内部監査員の中には2～3部署の監査にあたらなければならない状況であり、そういった内部監査員には大きな負担がかかっている。また、内部監査員の資質と力量に相違が見られるのも問題点の一つといえる。平成21年度では、内部監査員(学生)を一人でも増やすため、PR等を強化し、また授業の一環となるような仕組みづくりに努める。

#### [ 人材育成関係 ]

エコ検定試験：第4・5回合算 受験者63名 合格者30名。

学生へのISOレクチャー実施：4/7～8、9/25

学生表彰制度：学生ISO委員会の活動、卒業生表彰で1名が受賞

鳥取県版環境管理システム(TEAS)への学生参加：延べ14名

エコ検定の受験者数は昨年度と比較して大幅に減少した。これは学生全体の減少が大きな原因であると考えられる。合格率は全国平均を下回っており、平成21年度ではエコ検定の合格率向上に向けて、受験対策講座の強化などに取り組む。

ISOレクチャーでは鳥取市より講師を派遣し、ゴミ分別の講話、指導を行っている。次年度においても継続して実施する。

## イ 校内環境負荷軽減活動

CO<sub>2</sub>削減、ゴミ分別、ゴミの再資源化、コピー用紙の有効活用、通勤・通学時自動車燃費軽減の自主的取組、講義棟・学生研究室の空調温度管理、電気製品・パソコンの帰宅時コンセントはずし、昼食時の消灯等。

取組み内容	備考
CO <sub>2</sub> 削減学長プロジェクト継続	—
BDF 使用スクールバスの運行	TUES スクールバス、ラルゴ
学内売店でのグリーン商品の陳列	220品
事務用品・パソコン等のグリーン製品購入	—
ISO14001 カードの配布	4月実施
学生への ISO レクチャー	4/5～7、9/27実施
学生への景観通信簿アンケート	4月及び9月実施 学生 ISO 委員会
学生一斉清掃	4/19及び7/5実施 学生 ISO 委員会
学内清掃会社との清掃活動	H21. 1/14実施 学生 ISO 委員会、清掃会社
ペットボトルキャップ・紙パックの回収	学生 ISO 委員会
割り箸の回収	—
リターナブル食器の使用とゴミの分別回収コーナーの設置	環謝祭（学園祭）において

## ウ 環境研究関連

研究内容	備考
地方独立行政法人鳥取県産業技術センターとの研究等の支援 に関する協定書	4/23（会場：鳥取環境大学）
廃棄物系バイオマス（廃食用油）の利活用を核とした低炭素 循環型社会の構築に関する研究	9/19事業採択
研究者一覧・研究テーマ集	9月発行
低燃費車への学生駐車料金優遇によるCO <sub>2</sub> 排出削減	許可台数96台（CO <sub>2</sub> 削減学長プロジェクト）

## エ 地域社会貢献活動（環境関連）

活動内容	備考
公開講座	18回 実施 会場：鳥取、米子
地球環境講演会 ～G8北海道洞爺湖サミットを前に地球 環境問題担当 特命全権大使を迎えて	4/26（会場：とりぎん文化会館）
環境大臣会合関連イベント 「環境フェア in KOBE」、「NGO・NPO 交流の 広場」	5/24～25（会場：神戸市中央体育館、神戸学院大学）
環境教育リーダー研修基礎講座	10/22～24（会場：鳥取環境大学）
鳥取県環境フォーラム in 鳥取環境大学	7/19（会場：鳥取環境大学）
ポスター展『持続可能な暮らしと社会ドイ ツ環境保全展』	10/1～15（会場：鳥取環境大学）
ナゴヤメッセ2008	9/11～14（会場：ホートメッセなごや）
シンポジウム「高効率ごみ発電による低炭 素社会の実現」	10/21、23（東京、大阪）
地球環境講演会Ⅱ「いま地球で何が起こつ ているか」	H21. 1/25（会場：さざんか会館）
遠隔教育	1回（米子工業高校）
J T（日本タバコ）との若桜街道清掃	4/29実施
鳥取砂丘除草ボランティア	8/29実施
全国高校生環境論文	10/12実施
市街地清掃（若葉台、津ノ井）	7/15、11/29実施
審議会委員、講演活動等	270件以上
研究室開放及び研究展示	オープンキャンパス・環謝祭で実施 延べ36件
NIKKO フェア	H21. 2/5～6実施
エコプロダクツでの学生ISO委員会の 環境活動出展	12/11～13実施
環境関連地域社会貢献活動	学友会サークルによる活動 40件
天ぷら廃食油精製「BDF」の鳥取市10 0円バスへの供給	—
TEAS審査機関認定及びTEAS審査 業務実施	—

## オ TEAS 事業

### [ TEAS 審査業務実績 ]

10月に審査機関としての定期審査を受け、引き続き審査機関としての活動が認定された。本学学生が対応し、本学学生への教育と共に、高等学校へのPR活動を行った。平成21年度はさらなる審査員の質の向上に務めると共に、新規件数の確保に努める。

I種審査 1件

II種審査 15件 (内高等学校14校、体育施設1施設)  
(学生副審査員の活動数13)

## (8) 情報システム関連

### 情報メディアセンター活動実績

実施内容	実績
図書館開館日数	251日
来館者 (学生・教職員・学外者を含む延べ人数)	65,180人
図書資料貸出冊数	6,835冊
視聴覚貸出回数 (学生は館内のみのため数に含まない)	107回
パソコン等情報機器貸出回数	535回
相互貸借依頼件数 (文献複写・現物貸借を含む)	269件
図書資料受入れ点数 (図書システムへの登録分)	1,965点
視聴覚資料受入れ点数 (図書システムへの登録分)	31点
データベースサービスの新規導入 (3種類)	日経BP記事検索サービス 朝日新聞社データベースサービス エコロジーエクスプレス
パソコンヘルプデスク受付件数	847件
学生用パソコン修理受付件数	361件
情報コンセント点検	2回 (9月及び3月)
平成20年度新入生のパソコン設定 (全員分の回収及び再配布)	1回 (4月)
全学サーバシステムの新規稼働	4月

### [ 蔵書点検の実施 ]

H21. 2/23～26 閉館として実施

点検対象点数：67,429点 点検結果 不明6点 うち除却対象として3点を認定

**[ 各種協議会への参加 ]**

中国四国地区大学図書館協議会及び鳥取地区の図書館関係の協議会に参加：8回

**[ 一般向け講演会の実施 ]**

鳥取市立中央図書館と連携し、同館にて一般向け講演会を3回実施

開催日	講師	演題	参加人数
H21. 1/24	小林教授	先生、シマリスがヘビの頭をかじっています！	31名
H21. 2/28	福寫教授	いま、鳥取砂丘があぶない！！	46名
H21. 3/14	三野教授	豊かかってなんだろう？	28名

**[ 事務支援システムの更新 ]**

9月：事務支援システム稼働

事務支援システム：教務（学籍管理を含む）・就職支援・入試・経理・管財等のサブシステムからなる主に事務部門（一部、学生及び教員も利用）にて利用するシステム

**(9) 新学科の設置準備**

既存学科の3学科に加え、新たに環境マネジメント学科開設の届出を行い、認められた。平成21年度からは1学部4学科体制で教育を行う。同時に、環境政策学科を環境政策経営学科に学科名変更、環境デザイン学科を建築・環境デザイン学科に名称変更の届出を行った。建築・環境デザイン学科においては、一級建築士試験受験資格認定課程の変更に対応した。

## (10) 法人運営管理

### ア 理事会の開催

区 分	開催時期	議 案 等
第39回	4/22	環境デザイン学科の名称変更について、学長選考手続きについて 等
第40回	5/27	平成19年度事業報告及び収支決算について、環境マネジメント学科の設置に関する届出について、学則の変更について 等
第41回	7/9	定員割れ改善計画書の提出について（私立大学等経常費補助金申請）平成21年度学生募集に向けた学生支援策について 等
第42回	10/9	「学校法人鳥取環境大学寄附行為」の改正について、懲戒処分の変更について、業務運営理事会の先決事項の承認について、「鳥取環境大学学長選任規程」の改正について 等
第43回	11/17	「鳥取環境大学学長選任規程」の改正について、理事・評議員・監事の選出について 等
第44回	12/22	理事長の選任について、副理事長の選任について、常務理事の選任について、平成20年度予算の補正について、評議員の選出について、「鳥取環境大学授業料等の減免に関する規程」の改正について 等
第45回	平成21年 2/12	学長の選考について、平成21年度事業方針について 等
第46回	平成21年 2/25	学長の選考について
第47回	平成21年 3/27	大学院の学生を対象とする学生支援制度について、平成20年度予算の補正について、平成21年度事業計画（案）及び予算（案）について、副学長の選任について、センター長の選任について、研究科長の選任について、学科長の選任について、評議員の推薦について、評議員の選任について、諸規程の改正について 等

### イ 評議員会の開催

区 分	開催時期	議 案 等
第30回	5/22	平成19年度事業計画書及び収支決算について 等
第31回	10/1	「学校法人鳥取環境大学寄附行為」の改正について、「鳥取環境大学学長選任規程」の改正について、業務運営理事会の先決事項の承認について 等
第32回	11/19	評議員の選任について、理事の選任について、監事の選任に係る同意について 等
第33回	平成21年 3/19	大学院の学生を対象とする学生支援制度について、平成21年度事業計画（案）及び予算（案）について、平成20年度予算の補正について 等

## ウ 業務運営理事会の開催

日常的な管理運営事項等を審議するために、業務運営理事会を計7回開催し、次に掲げる事項についての報告も行った。

- ・ 例月の業務の執行状況及び月次決算書等の報告
- ・ 学生の活動状況及び異動（休退学など）状況
- ・ その他大学行事の実施状況など必要と認める事項

## 2 法人の概要

### (1) 学校学部・学科等

設置学校名	学部・研究科・課程名	学科・専攻・附属施設等名
鳥取環境大学	環境情報学研究科	環境情報学専攻
	環境情報学部	環境政策学科 環境デザイン学科 情報システム学科

### (2) 入学定員、学生数の状況

学部名	学科名	学部定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号
環境情報学部	環境政策学科	166	2	668	学士(環境政策学)
	環境デザイン学科	79	2	320	学士(環境デザイン学)
	情報システム学科	79	2	320	学士(情報システム学)
計		324	6	1,308	—

大学院	領域名	入学定員	収容定員	学位又は称号
環境情報学研究科	社会環境学領域	10	20	修士(環境情報学)
	環境デザイン領域	5	10	
	情報システム領域	5	10	
計		20	40	

### (3) 教職員・役員の概要(平成20年4月1日現在)

#### ア 役員

理事長	副理事長	常務理事	理事	理事計	監事
1	1	1	7	10	2

#### イ 教員

学長	副学長	研究科長
1	1	1

環境情報学部	教授	准教授	講師	助教	助手	計
環境政策学科	8	7	0	0	0	15
環境デザイン学科	7 <small>研究科長含む</small>	3	0	1	0	11
情報システム学科	8	3	0	1	0	12
人間形成教育センター	0	1	1	0	0	2
計	23	14	1	2	0	40

\* 環境デザイン学科には特任教授1人を含む

\* 環境情報学研究科の兼任教員34人を含む

#### ウ 事務局職員

事務局長	次長	総務課	企画交流課	入試広報課	学務課	就職課	図書情報課	合計
1	1	8(1)	5	5	6(3)	2(2)	5(2)	34(7)

\* ( )は嘱託職員及び派遣職員で別数

\* 東京・大阪駐在、高校訪問担当等の参与は含まず

### 3 財務の概要

#### (1) 経年比較

【消費収支】

(金額単位：百万円 (端数四捨五入)、< >内は前年対比：%)

科目	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
学生生徒等納付金	659	1,053 <159.8>	1,389 <131.9>	1,673 <120.4>	1,525 <91.2>	1,352 <88.6>	1,157 <85.6>	935 <80.8>
地方公共団体補助金	1,849	1,070 <57.9>	609 <56.9>	221 <36.3>	28 <12.7>	24 <85.7>	23 <95.8>	19 <82.6>
国庫補助金					173 <->	159 <92.4>	164 <103.1>	137 <83.5>
その他	79	82	67	60	82	33	98	113 <115.3>
消費収入計 (A)	2,587	2,041 <78.9>	2,065 <101.2>	1,954 <94.6>	1,808 <92.5>	1,568 <86.7>	1,442 <92.0>	1,204 <83.5>
人件費	701	774 <110.4>	800 <103.4>	799 <99.9>	765 <95.7>	786 <102.7>	765 <97.3>	731 <95.6>
教育研究経費	665	799 <120.2>	829 <103.8>	821 <99.0>	689 <83.9>	587 <85.1>	579 <98.6>	605 <104.5>
管理経費	279	296 <106.1>	323 <109.1>	282 <87.3>	300 <106.4>	264 <88.2>	223 <84.5>	233 <104.5>
その他	0	3	5	3	1	3	1	70 <7000.0>
消費支出計 (B)	1,645	1,872 <113.8>	1,957 <104.5>	1,905 <97.3>	1,755 <92.1>	1,640 <93.5>	1,568 <95.6>	1,639 <104.5>
(A) - (B)	942	169 <17.9>	108 <63.9>	49 <45.4>	53 <108.2>	△72 <-136.3>	△126 <-173.6>	△435 <△345.2>

## 【貸借対照表】

(金額単位：百万円) ※建物等の有形固定資産が年々減少しているのは減価償却の為

科 目	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
土地	6,008	6,026	6,026	6,026	6,026	6,026	6,026	6,026
建物	7,603	7,354	7,071	6,795	6,512	6,228	5,944	5,666
教育研究用機器備品	682	584	471	355	231	184	146	115
図書	194	239	247	259	263	266	270	274
現預金・引当資産	1,877	2,551	2,988	3,521	3,869	4,152	4,315	4,220
その他	164	136	128	109	84	61	57	69
資産計①	16,528	16,890	16,931	17,065	16,985	16,917	16,758	16,370
退職給与引当金②	12	22	35	47	43	42	44	44
未払金③	119	136	64	120	45	49	42	55
前受金④	355	293	268	248	192	160	111	114
その他負債⑤	10	20	7	7	5	4	8	13
基本金⑥	15,057	15,275	15,306	15,342	15,346	15,380	15,396	15,423
翌年度繰越消費収入超過額⑦	975	1,144	1,251	1,301	1,354	1,282	1,157	721
②～⑦計 (=①)	16,528	16,890	16,931	17,065	16,985	16,917	16,758	16,370